

### 3.8. 林業労働安全に関する調査

#### 1. 試験担当者

本場機械化部作業第一研究室長　辻　隆道ほか

#### 2. 試験目的

林業労働の災害防止に対する基礎資料を得る。

#### 3. 昭和44年度の経過とえられた結果

昭和40年度：国有林野事業における林業労働災害発生状況を各要因別に分析し、作業行動面からの検討を加え、防止対策の指針を示した。

昭和41年度：

- ・前年度に引き続き、発生要因と身体動作、使用器具、加害物件、発生経過の要因誘因などを詳細に分析し、林業労働災害の特徴性を明らかにした。
- ・適性検査成績と災害頻発者の関係を調査した。また各種作業基準の改正、教育普及などに関連した予備調査を実施した。

昭和42年度：

- ・レイノー現象発生に伴ない、チェーンソー作業の再検討と共に、作業仕組の変更も検討し、従来の伐木造材作業基準を改正する調査を行ない、改正案を作成した。

- ・林業労働者に対する具体的な教育訓練の在り方、方法書などをすみやかに作る必要から、「林業労働安全管理と人間工学」（単行本）を刊行し職員研修の講義に役立たせた。

- ・作業員の性格と適正および集団のモラールと災害の関連性を一部調査した。

昭和43年度：

- ・集材機作業基準の改正案を作成すると共に、改正案の実行が現場において容易に行なえるよう「集材機作業基準解説」書を作成し刊行した。

- ・林業土木作業の災害防止に重点をおき、物的、人的の不安全要素を排除する目的をもった「林業土木安全のしおり」を刊行した。

- ・昨年に引き続き、集団のモラール、集団の性格の調査を実施し、行動科学的に災害との関連を求めた。

昭和44年度：

- ・チェーンソー作業の適正な作業姿勢の確立によって振動障害を防止するための作業姿勢、機械の保持方法を解明する調査を行ない、現場への適用を検討した。

- ・集材機運転手の職業病に関連した、集材機の座席の在り方、操作ハンドルの据付状況と振動の関係を調査した。
- ・小集団の人間関係と災害発生、安全管理体制の関係を調査し、一応の結果がえられた。
- ・職場の安全点検活動のチェックを行ない、具体的なチェックポイントを明らかにした。

#### 4. 昭和45年度の試験計画

- ① 伐木造材とくに、チェーンソーの作業方法を作業姿勢、機械の保持の面から調査研究を行い、その基本動作を解明し、現場への教育と普及のための VTR を作成し、現場へ適用する。
- ② 作業環境とくに林業機械（トラクタ、集材機）の座席、ハンドル、作業方法別に、安全の面から人間工学的な検討を加える。
- ③ 人間関係：小集団から中集団へと範囲を広げ、安全管理体制の中での人間関係（集団のモラール、性格、欲求）を調査し、安全対策の障害となっている点を人間行動の面から把握する。
- ④ 教育と訓練：災害防止の点から各種作業基準に定めてある作業行動をチェックし、適正な作業動作の再訓練のための VTR を作成し、訓練基準を確立する。